特集: SunSystems の外貨管理機能 Part II 「為替再評価計算」

今回の特集では、SunSystemsの外貨管理機能の第二弾として、「為替再評価計算」を自動実行する方法について ご説明します。

<u>1. サンプルケース</u>

次のようなサンプルケースをベースにご説明します。

①外貨建て債権を社内レート(前月末レート)で計上
 ②月末レートで為替評価(未実現為替差損益)を実行
 ③決済は決済日レートで入力し、実現為替差損益は、消込み時に差額を仕訳入力
 ④未決済額と前月以前の為替評価計算の仕訳を対象に、月末レートで為替評価を実行

SunSystems 上での設定や操作方法は次ページ以降の「2. SunSystems での処理」でご説明いたします。 換算レートの設定方法や、外貨建ての仕訳の入力方法のより詳しい内容については、前号の特集「SunSystems の外貨管理機能 Part1」をご参照ください。

1-1. 換算レートの運用方法

換算レートは会計期を指定して登録します。 月中の外貨入力用の社内レートとして前月の末日レートを登録し、月中の仕訳入力を実施した後、月末に このレートを当月末日レートに修正して、為替再評価を行います。同時に翌月の社内レートを登録します。

タイミング	アクション	換算コード	転記会計期	換算レート	(対基本通貨レート)
01/2012 月初	新規登録	USD	01/2012	¥78.00	←12/2011 末日レート
01/2012 月末	修正	USD	01/2012	¥76.00	←01/2012末日レート
02/2012 月初	新規登録	USD	02/2012	¥76.00	←01/2012末日レート

1-2. 外貨建て債権の計上

会計期	外貨金額	通貨	基本金額	借方/貸方	
2012/001	100.00	USD	7,800	D	計上レート@78.00
残高	100.00	USD	7,800	D	

1-3.月末の再評価レートで為替再評価(未実現の為替差損益の計算)

会計期	外貨金額	通貨	基本金額	借方/貸方	
2012/001	100.00	USD	7,800	D	計上レート@78.00
2012/001	0.00	USD	-200	С	再評価レート@76.00 自動計算
残高	100.00	USD	7,600	D	

1-4. 翌月の債権計上と前月分の決済入力

会計期	外貨金額	通貨	基本金額	借方/貸方	
2012/002	200.00	USD	15,200	D	計上レート@76.00
2012/002	100.00	USD	-7,900	С	決済レート@79.00

1-5. 個別消込みと実現為替差損益の計上

会計期	外貨金額	通貨	基本金額	借方/貸方		消込
2012/001	100.00	USD	7,800	D	計上レート@78.00	Y
2012/001	0.00	USD	-200	С	再評価レート@76.00	
2012/002	200.00	USD	15,200	D	計上レート@76.00	
2012/002	100.00	USD	-7,900	С	決済レート@79.00	Y
2012/002	0.00	USD	100	D	実現為替差益	Y
残高	200.00	USD	15,000	D		

1-6. 月末の再評価レートで為替再評価

会計期	外貨金額	通貨	基本金額	借方/貸方		消込
2012/001	0.00	USD	-200	С	再評価レート@76.00	
2012/002	200.00	USD	15,200	D	計上レート@76.00	
2012/002	0.00	USD	800	D	再評価レート@79.00	
残高	200.00	USD	15,800	D		

<u>2. SunSystems での処理</u>

上記のサンプルケースを SunSystems で実行する手順は以下のとおりです。

2-1. 換算レートの登録・修正

換算レートは SunSystems の「CV=換算テーブル管理(Conversion Tables)」で登録および修正します。 今回のサンプルでは、会計期毎にレートを登録します。

月中の外貨入力用の社内レートとして、月初に前月末日レートを新規登録(Create)します。月締めのタイミングで このレートを当月末日レートへ修正(Amend)して、為替再評価を実行します。 あわせて翌月の社内レートを新規登録(Create)します。

●CV=換算テーブル管理(Conversion Tables) 画面での設定

 ① SunSystems - 換算テーブル管理 遼択(A) 入力(E) 照会(D) 帳票出力(R) 処理(P) 管理(M) シ 	ステム(S) ヘルプ(H)		
A @ [1] 鄂 [7] [1] 9 更 元帳会計 仕:	R配賦 固定資産管理 勘定科目コピ	ー 勘定科目コピー 仕訳入力	元帳照会 個別消込み 仕訳
┌換算テーブル管理			通貨コード
換算コード	USD		会計期
転記 会計 期	01/2012		
勘定科目コード 始め			
終り			
乗算又は除算(*/)	*		レート
対基本通貨レート	78.00000000	2	
対ユーロレート		8 4 5 5	
換算コード定義上書き:		6	
換算名			
為替差損益			
勘定科目:	実現	未実現	
正味又は差損勘定科目			
差益勘定科目			
		DHI 29/02/2012 TO	
		DW0 128/02/2012 15	M CAPS NUM SURL INS

2-2. 為替再評価の実行

為替再評価は、「LR=為替再評価計算(Ledger Revaluation)」画面で行います。 為替再評価の対象となる仕訳を指定して、再評価計算を実行します。レポートで結果を確認して、元帳に転記します。



●LR=為替再評価計算(Ledger Revaluation) 画面の設定

※LRの設定項目について、以下の点を補足いたします。

・再評価会計期

当期(Current Period)はデータ入力中(締めていない)という意味から、評価替えの実行結果を元帳に転記 できないようになっています(レポート(チェックリスト)を出力することは可能です)。 元帳に転記する場合は「LD=元帳基本条件定義(Ledger Definition)」または「NP=新会計期(New Period)」

で、あらかじめ会計期を翌期に変更しておきます。

(仮転記仕訳(Rough Book)に対する再評価の実行も可能です。)

・仕訳分析(T)コード統合

為替再評価計算は科目別・通貨別・分析コード別に実行されますが、ここでYを設定すると、再評価計算は 分析コードごとに分かれず、科目別通貨別でまとめて実行されます。(バージョン4.3以降の追加機能です。)

●レポート (チェックリスト) 出力

レート@78.00 円/\$で計上した米ドル建の債権について、レート@76.00 円/\$でLR を実行した際の レポート(チェックリスト)です。



2-3. 翌月の債権計上、前月分の決済入力、個別消込みと実現為替差損益の計上

翌月発生の債権の計上と、前月分の決済(入金)仕訳の入力を実行します。 その後、「AA=個別消込み(Account Allocation)」の画面にて個別消込みを実行します。 この時、計上と決済の外貨金額は一致しますが、それぞれの為替レートの差異から、換算後の円金額の貸借が 一致しません。

●AA=個別消込み(Account Allocations) 画面で個別消込みを実行

	元報会計 住訳配数	固定資産管理 勘定科目コピー 勘定科目:	コピー 仕訳入力 元帳照会 個別	消込み
nSystems - 個別消込み	取引ページ	1		
勘定料目コード 201		借方合計	7,800	
債權A社		貸方合計	7,900	
後権	JPY	総差額	100	D.
日付参照番号	金額	消込 換算	外貨金額	
2/01/10 債権計上①	7,800 D	Y - USD	100.00	
2/01/31	200 C	- USD	0.00	
12/02/05 債権計上⑤	15,200 D	- USD	200.00	
12/02/20 債権決済の	7,900 C	14 - USD	100.00	

この状態で消込み、転記を実行すると、「貸借金額が合いません」のメッセージが出力され、転記することができません。

ОК	≠∀>₽₩	
貸借金額)	が合いません	

そこで、計上と決済の円金額の差額(実現為替差損益)を計上するための仕訳を「AA=個別消込み(Account Allocation)」の画面で追加作成します。

●実現為替差損益の計上

「仕訳作成(Generate)」をクリックし、仕訳作成画面で「新規作成(Create)」をクリックします。

🖲 SunSy	stems -	個別消込。	<u>ሥ</u>	SunS	veteme -	個別的省決	a.
選択(<u>A</u>)	入力(E)	照会①	帳票L	·强択(A)	入力(E)	昭会の	帳票
開次前最後にあり、) 2(N) 2(B))	」 」消込 ド	р В	新規作 修正(4 削除(1 次デー TP 取) 終了(4	F5%(<u>C)</u> A) D) タ(N) 号 ページ(TP) タ	 清込 ř	<u>а</u> .
4.10個	/ <u>牙國/</u> 成(G)						
元帳転	記(P) 七(D)	参照褶	番号				

●仕訳作成画面で差額金額を入力

SunSystems - 個別消込み 仕訳作 What (の) たち(の) 使き(いち(の) たち(の) た(の) たち(の) た(の) た(の) たち(の) たち(の) た(の) たち(の) た(の) たち(の) た(の) た(の) た(の) た(の) た(の) た(の) た(の) た	或ヘ*ージ 1 ハ/ 2-コ=1/(?) ▲ #=#/#/\	
	● 「「「」」」、「」」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」	■料目コピー 勘定科目コピー 仕訳入力 元帳照会 個別消込み 仕訳
	仕訳作成ページ 1	
勘定科目コード 201	借方:	☆ \$ 1 7,800
債権 A 社		승타 7,900
債権	JPY 総想	£額 100D
		外貨が入力できる伝票形式を選択します。
入力伝票形式	JVC	
III III III III III III III III III II	2012/02/20	部門 100
42.51		キーボードから F3 キーを押すと自動的に差額金額
取引参照番号	実現為替差損益	と貸借記号がセットされます。
摘要	実現079.00	
基本金額		p p
相手方勘定科目	700	為智差損益
換算コード		実現為替差損益を計上する科目を指定します。
OK ++>tb		
		DMJ 20/02/2012 TST A CAPS NUM SCRL INS
🎒 スタート 🛛 🖸 🥥 🥭 🦉 👔 🗁 LR 🛛 🖉 Win	💽 Micr 📴 L.R 🗐 Sun 🦉 🎘	. 🗀 LR 🔄 SC.d. 💽 Su 🛛 🔞 🧑 🧑 💷 🛠 🔍 🖏 🖏 🖏 🖏 2353

仕訳入力が完了したら、キーボードから[ESC]キーを押すと、元の消込み画面に戻ります。 この時、追加作成した仕訳も消込みがされ("Y"のフラグが入力済みとなり)、貸借が一致しているので、 そのまま転記を行います。

●AA=個別消込み(Account Allocations) 画面に戻って転記

1世催 A A1 ● SunSystems - 個別消込み	取引ページ 1	代十么主		7.900
選択(A)入力(E) 照会(P) 帳票出力(B)	処理(P) 管理(M) システム(S)	ヘルプ(圧)		
	🛒 元帳会計 仕訳配賦	固定資産管理 勘定科目コピー 1	助定科目コピー 仕訳入力	元帳照会 個別洋
_SunSystems - 個別消込み	取引ページ	1		
勘定科目コード 201		借方合計		7,900
債権 A 社		貸方合計		7,900
債権	JPY			0
日付参照番号	金額	消込	換算 外貨金額	Ę
12/01/10 債権計上①	7,800 D	Y - USD	100.00	
12/01/31	200 C	- USD	0.00	
12/02/05 債権計上⑤	15,200 D	- USD	200.00	
12/02/20 債権決済①	7,900 C	Y - USD	100.00	
12/02/20 実現為替差損益	100 D	Y - USD	0.00	

上記の方法は、消込みとあわせて、実現為替差損益の計算と仕訳の計上を一回で実行できる点が便利です。 もちろん、実現為替差損益の仕訳を別途計算して入力し、別途消込みを実行することも可能です。

2-4. 為替再評価の実行

ここまでの処理で、残っている仕訳は、前月の為替再評価の仕訳と、今月計上の未決済の仕訳となります。

🖲 Sun Systems 🖞	- 個別消込み	取	オージ	1					
選択(A) 入力(E)	照会① 帳票	票出力(<u>R</u>) 処理(<u>P</u>)	管理(M)	システム(S)	ヘルプ(圧)				
	3635	🗐 🕄 🛒 元(長会計	仕訳配賦	固定資産管理	理 勘定科E	コピー 甚	加定科目コ	ビー(仕訳入力)元
_SunSystems -	個別消込み		取引	ページ	1				
勘定科目	リード	201			f	昔方合計			
債権A社						3t 4H	前月の	為替再調	平価の仕訳
/= +5				IDV					
1査 1種				JPï	f	総差額			
日付	参照番号	Ŧ	金額			消辺	2	換算	外貨金額
-									
12/01/31			200) c 🖌			- USD		0.00
12/02/05	債権計上⑤		15,200) D 🔍			- USD		200.00
					$\overline{}$		今月計	・上の未ネ	央済の仕訳
12/01/31 12/02/05	参照番号 債権計上⑤	5	金額 200 15,200				- USD - USD - USD	換昇 ・上の未れ	外資金額 0.00 200.00 央済の仕訳

再度、為替再評価を実行します。

この時、前月の為替再評価の仕訳を取り消す仕訳と、今月計上の未決済の仕訳に対する評価替えの仕訳が作成されます。



LR のレポートで見ると以下のようになります。



従って、「LR=為替再評価計算(Ledger Revaluation)」で自動作成した未実現為替差損益の仕訳については、 次のLR実行時に相殺されるため、決済時に考慮する必要は特にありません。

<u>3.補足</u>

「LR=為替再評価計算(Ledger Revaluation)」の実行に関して、以下の点を補足します。

①LR の為替再評価計算は差額法

LR の為替再評価計算は差額法で実行されます。

例えば、上述のサンプルケースの続きとして、さらに翌月に「LR=為替再評価計算(Ledger Revaluation)」を 実行すると、以下のレポートのように再評価仕訳が計上されます。



②為替差損益の仕訳は通貨別・分析別に計上されます。

「LR=為替再評価計算(Ledger Revaluation)」の実行によって PL 側の為替差損益科目に自動計上される仕訳は、 通貨別・分析別に分かれます。仕訳を分析別に分けたくない場合は、LR の実行時(転記時)に、「仕訳分析 (T) コード統合」の設定を"Y"にセットします。

③為替差損益を計上する科目の設定

為替差損益を計上する科目の設定は、差損益として一つの科目にまとめることも、差益と差損で科目を分けることも、 実現為替差損益と未実現為替差損益を分けることも可能です。さらにこれらの組み合わせを通貨別に設定することも 可能です。

為替差損益を一つの科目にまとめた場合、貸借どちらに残高があるかによって、営業外収益もしくは費用のどちらの 項目として表示するかを、SunSystemsの財務諸表の設定で自動判別させることができます。

なお、差益と差損で科目を分けた場合は次の点に注意が必要です。

- ・差損益の計上処理の流れによって、差益科目の借方計上や差損科目の貸方計上(振り戻し)が起きる。
- ・差益と差損それぞれの科目に再評価仕訳が計上されるため、帳票上はネットでは相殺されるよう設定した場合でも、
 差益と差損それぞれ科目の金額は大きな数字になる。

④為替再評価仕訳を翌期首に洗替え処理する場合

未実現の為替差損益を翌期首に洗替え(取り消し)処理する場合、LR実行によって生成された為替再評価仕訳の 転記番号をキーに、SunSystemsから元の仕訳の貸借逆データをエクスポートし、翌会計期にインポートする方法が 効率的です。

ただし、LRの実行によって自動生成された為替再評価仕訳は、換算コードXXX、外貨金額0、円金額xxx,xxxとして 生成されているため、下記のようにレート設定をしていると、インポート時に、円金額とレートから逆算して外貨を 計上してしまいます。

例)			
レート設定	@79.0	0	
インポートデータ	USD	\$0	¥600
		\downarrow	
インポート後	USD	\$7.59	¥600

これでは外貨金額がおかしくなってしまいます。そこで、外貨金額がゼロの仕訳をインポートする場合は、 CVの画面で、一時的にレートの登録を空欄(ゼロ)に修正してインポートを実行し、インポート完了後に、 再度元のレートの設定に戻します。

冒頭の換算レートの運用例でご説明すると以下のようになります。

■月初のレートの	送録(前月末日	レート)				
タイミング	アクション	換算コード	転記会計期	換算レート(対基本通貨レート)		
02/2012 月初	新規登録	USD	02/2012	¥76.00 ←01/2012 末日レート		
■一時的にレートを空欄に修正						
タイミング	アクション	換算コード	転記会計期	換算レート(対基本通貨レート)		
インポート実行前	修正	USD	02/2012	空欄		

●CV=換算テーブル管理(Conversion Tables) 画面

🤨 SunSystems - 換算テーブル管理		
選択(A)入力(E) 照会(I) 帳票出力(R) 処理(P) 管理(M) シ	ステム(5) ヘルプ(出)	
☆算テーブル管理────		
換算コード	USD	
転記会計期	02/2012	
勘定科目コード 始め		
終月		
乗算又は除算 (*/)	*	
対基本通貨レート		2
		3
対ユーロレート		4
		5
換算コード定義上書き:		6
換算名		
為替差損益		
勘定科目:	実現	未実現
正味又は差損勘定科目		
差益勘定科目		
ΟΚ τουτ	新規作成(C)) 修正(A) 削除(D) 調査(E) 次データ(M
, レコードが修正されました		DMJ 11/04/2012 TST A CAPS NUM SCRL

インポート完了後に、再度元のレートを設定します。

※SunSystems について、より詳しいご説明が必要な際は、お気軽にサポートデスクへご連絡ください。 (サポートデスク電話番号: **03-5770-8833**)